

ラクリマ

こと切れた君の頭を抱いて
僕は野に泣いた

苦悶とも

恍惚とも見える君の表情は
ああ、神そのものだった

誰ひとり出会わず
僕たちは荒れ野をさまよひ
何年が過ぎていたろう

衣に泣き縋る妻と子を振り切り
君は僕とともに来てしまった
与えることのない毎日へと

僕たちの間に友情などはなく
助け合うこともなく
ただひたすらに与えられることだけを想っていた

小川のせせらぎから
陽光と影から
大気の哀しみから

そして今、君はこと切れたのだ
僕は君を埋めるつもりはない

そして僕は
来た道を引き返した
君を野ざらしにして

(1999.7.12)